ちかみちよりも

まわりみち

vol. 5

-Contents-

塾長の活活算数講座　里語と算数

里みちこ詩展ーいのちの四季ー報告

落語教室初高座

こどもと落語「転失気」

豊かな発想力を一生の財産に

まわりみち　松江算数活塾通信　12月上期号　2023年12月1日発行　vol.5(毎月2回発行)

発行・編集／松江算数活塾　〒690-0871　松江市東長谷町386-7　TEL 0852-67-8005　https://katsujuku.net

と尋ねられました。和尚様、このいかにも漢語調の言葉の響きに「てんしきとは何ですか」と聞くことができません。その場は適当にあしらうものの、気になってならず調べようとするのですが、さすが落語の登場人物、姑息な手段に出ます。小僧の珍念さんに調べに行かせるのです。「自分は知っているんだが、お前の修行のために」と。ミスターお為ごかしです。

　初めは和尚様の言うことを信じて聞いて回っていた珍念さん、ついに真相に気づきます。ここで素直に「和尚様、てんしきとは…」と申し上げるような人物は子どもといえど落語には出てきません。ここからお医者様を交えて和尚様と珍念の丁々発止のやりとりがこの話の聞き所です。最後は珍念にギャフンと言わせられるのですが、そんな和尚様を珍念はどこか慕っているふうなのが、またまた極めて落語的です。子どもにそんな複雑な関係が演じられるのかと思われるかもしれませんが、子どもが語るから描けるということもあるなあ、と高尾小の子どもたちを見ていて思いました。

　ちょっと、いや、かなり尾籠な話なのですが、子どもたちにぜひやってもらいたい演目の一つです。立場はどんなに隔たりがあったとしても人と人、友達になれないはずはない、心のどこかにそんな思いを潜ませてくれるような気がするので。

　さて、転失気のほんとうの意味は。

　それは活塾の噺家さんがいつか高座にかけるまでのお楽しみ、ということで。

（宮森健次）

編集後記

・今号から体裁をA5版に変更しました。塾に関係あるなし関わらず読んでもらえる通信にしたいと思っています。ご意見ご感想ぜひお寄せください。

・里さんにまた会いたい、とたくさんの声。主催者も願いは同じ。ありがとうございました。（M）

塾長の活活算数（いきいき）　第５回

里語と算数

(220, 284), (1184, 1210), (2620, 2924), (5020, 5564), (6232, 6368), (10744, 10856),

第四回活活寄席には多数ご来場いただきありがとうございました。

里みちこさんと民間塾とはどう考えても結びつきません。松江算数活塾主催としましたが、なるべく目立たない立ち位置にいようと思っていました。その思いからでは決してないですが、私は詩展前夜に転倒し、救急搬送され、里さんをお迎えできませんでした。

最終日の最後の詩語りの時にやっと会場に行くことができたのですが、里さんは笑顔で迎えてくださいました。あべこべでした。しかも、「転んじゃったの。私も。転んじゃった同士ね。」と。もうそこで涙がこぼれます。一瞬にして里ワールドの懐の中に迎え入れてくださいました。

(12285, 14595), (17296, 18416), (63020, 76084), (66928, 66992),(67095, 71145)(69615, 87633),(79750, 73…

里さんは、算数活塾にたくさんのお土産を持ってきてくださいました。*友愛数で仕立てられた「いのちの四季」は、ギャラリーあいえんきえんの離れの長押にピッタリ収まり、「新しいことを始めるのはたいへんなことだけれど、がんばりなさい」「わたし今回新たに作ってきたのはこれだけなの」と、算数活塾とのご縁を友愛数で結んでくださいました。ますます算数を磨いて、里クオリティーまで高めなければいけません。

(79750, 7388730),(100485, 124155),(122265, 139815),(122368, 123152),(141664, 153176),(142310, 168730)

まず、最初に思い浮かんだのは重さの授業です。「重さの計算ができなくても、地球より重いものがわかる方がずっと大事」と言っていた昔を思い出しました。その時、里語を駆使できていたのなら、もっと重厚で上質な算数授業ができていたのにと思います。

いのちの四季にふれ、里ワールドを国語、英語、数式、…、里語によってテレポーテーションのように飛び回る心地よさを感じました。里語を使って算数授業も変えてみたいと思います。地方にいながらにして最高レベルで最高クオリティーの算数を提供すると言っていたことに嘘はありませんが、上にはもっと上がありました。

*友愛数…異なる２つの自然数の組で、自分自身を除いた約数の和が互いに他方と等しくなるような数。親和数。最小の友愛数の組は(220,284)

（塾長　川上宜久）

(171856, 176336),(176272, 180848),(185368, 203432),(196724, 202444),(280540, 365084),(308620, 389924)

読物「活塾草紙」

こどもと落語　その伍

転失気

「てんしき」と読みます。どういう意味なのかは、ひとまず置いといて。

昔、何かの本で読んだのですが、巨匠黒澤明は、スタッフや俳優に問いかけたとき、あいまいな返事が返ってくると「知らないことは、知らないと言いなさい」と強く叱ったそうです。新人ならいざ知らず、それなりの立場を得た人にとって、「知らない」は言いにくい。いい映画を撮りたければ、つまらぬこだわりを捨てよ、という黒澤明の端的なメッセージです。やはり現代を代表する映画監督のクリント・イーストウッドは、今も映画を撮るとき、誰彼構わず「私は何にも知らないので教えてください」と言うのだそうです。

もしかすると、この「知らない」の尊重がよい仕事をする秘訣なのかもしれない、と考えるのですが、もちろんだれもがそんなに謙虚になれるはずもなく、時と場合によっては妙なプライドを大事にして威圧的な態度を取ってしまうことだってありましょう。これが落語では格好の攻撃対象になります。それなりの立場にある人、武士、お坊さんなど、そういう人物造形をされて、徹底的に茶化されます。

自他共に認める「物知り」である和尚様。物知りと讃えられるがゆえに「知らない」が言えなくなってしまいました。お医者様の診察を受けたら、「時に和尚様、転失気はございましたかな？」